



BIRC

徳島大学バイオイノベーション研究所

Bio-Innovation Research Center
Tokushima University

目次

所長挨拶 - 1

研究施設 - 2

部門紹介 - 4

研究紹介 - 6

ヴォルテックス棟 - 18

とくしまバイオイノベーションプラットフォーム - 19

ご寄付のお願い - 20

徳島大学が地域や産業界と連携し、生物系新産業や六次産業化にかかるオープンイノベーションを推進する目的で設立されました。農林水産業や食、健康の未来を展望した革新的な研究活動や教育を実践し、大学発スタートアップ企業など新産業の創出や地域産業のイノベーションを支える人材の育成を進めます。

所長挨拶



2016年、徳島大学はこれからの地域と時代を見据えた組織改革の一環として、生物資源産業学部を立ち上げ、新たな研究教育施設として附属農場（石井町）と水圏教育研究センター（鳴門市）、後に新野サテライトキャンパス（阿南市）を整備しました。これらの施設を拠点として、常三島キャンパスや蔵本キャンパスの研究者と連携しながら、生物生産に関連するバイオ研究、6次産業化にかかる教育や研究活動を展開してきたのですが、年々、地域や産業界との交流が増えるにつれ、大学発スタートアップの創業支援に加え、施設を利用しての人材育成への期待が高まっていました。そこで、2020年7月にこの三施設を融合してバイオイノベーション研究所を設立し、常三島キャンパスや蔵本キャンパスの研究室

とも連携しながら、学外の企業や地方公共団体との産学官連携活動を加速させることにしました。

当研究所は、経済産業省 J-Innovation HUB 地域オープンイノベーション拠点（地域貢献型）に選定されており、企業ネットワークのハブとなって地域の課題解決や地域経済の振興等に貢献することに、大きな期待が寄せられています。2023年には、同省の産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）事業により、本学の産学融合拠点となる新たな施設「ヴォルテックス棟（鉄筋コンクリート造3階建、延床面積2,263㎡）」が運用を開始しました。また、2024年には、文部科学省より予算措置された「地域オープンイノベーション拠点における『医／農融合先端医療技術教育研究』の推進事業」により、新部門「先端医療技術開発部門」を設置しました。これら事業により拠点の整備を進め、生産現場のニーズに応じて先端科学からのシーズを社会実装化まで展開し、世界情勢にも目配りしながら、地域に軸足を置いて地域の幸せな未来を創るイノベーションを目指して参ります。

高い水準の研究を維持し、産学官の連携で地域の課題を解決し、それらの過程を通して実践的な教育を行い、地域の未来に貢献する人材を育てていきます。この実現のため、あらゆる分野の皆様と交流し、連携や協働を創造的生産的に進めて参りますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

所長 三戸 太郎

OUR SYMBOL

ロゴマークについて

3つの[I]を扉に例えています。生物の世界を私たちの世界に Invite(招待、繋げる)するために、Invention(発明、研究)をあらゆる外部機関と連携して行い、社会実装によって Innovation(革新)を起こします。大地をイメージするアースカラー、森をイメージするグリーン、水をイメージするブルーを配色。その全ての扉を開く事でバイオイノベーションを実現します。



nvite



nvention



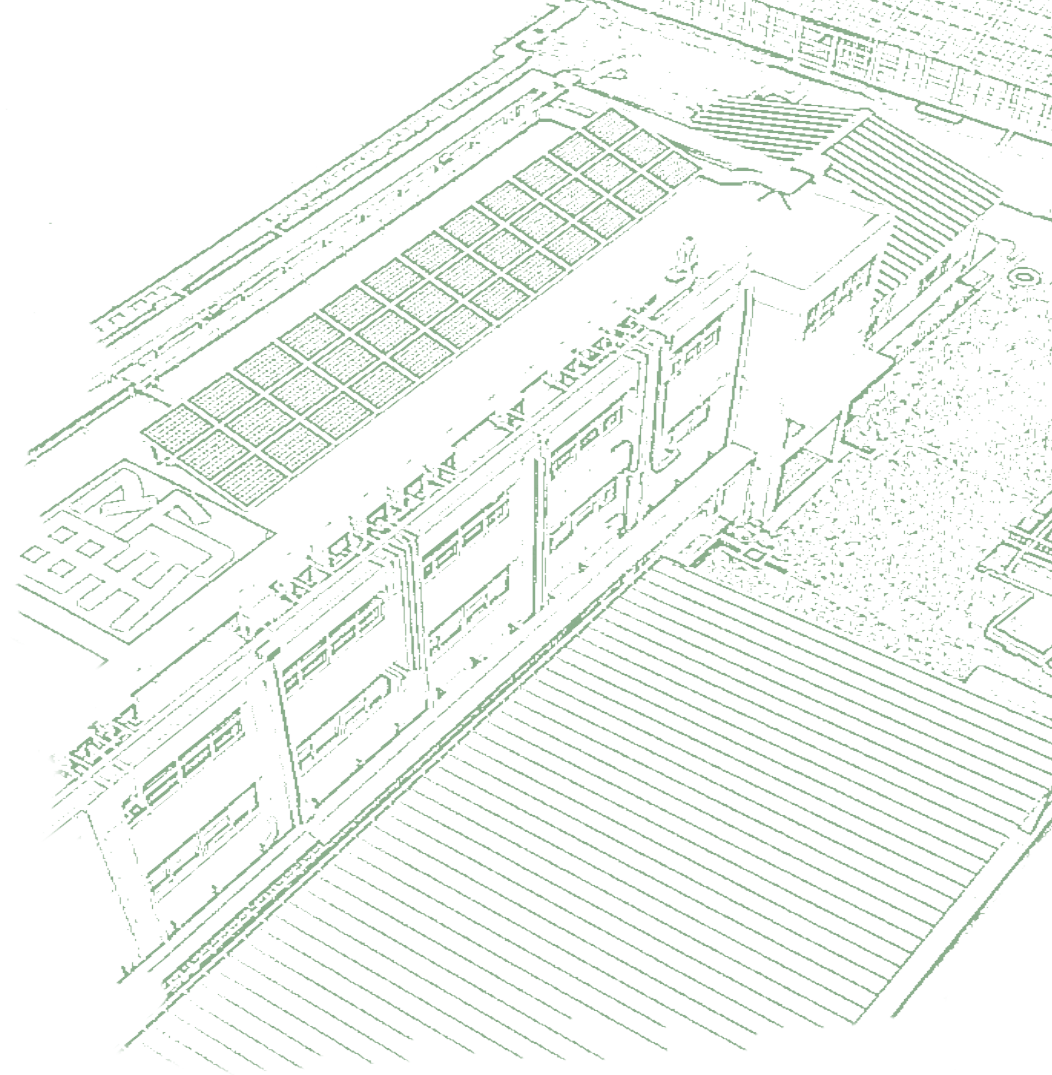
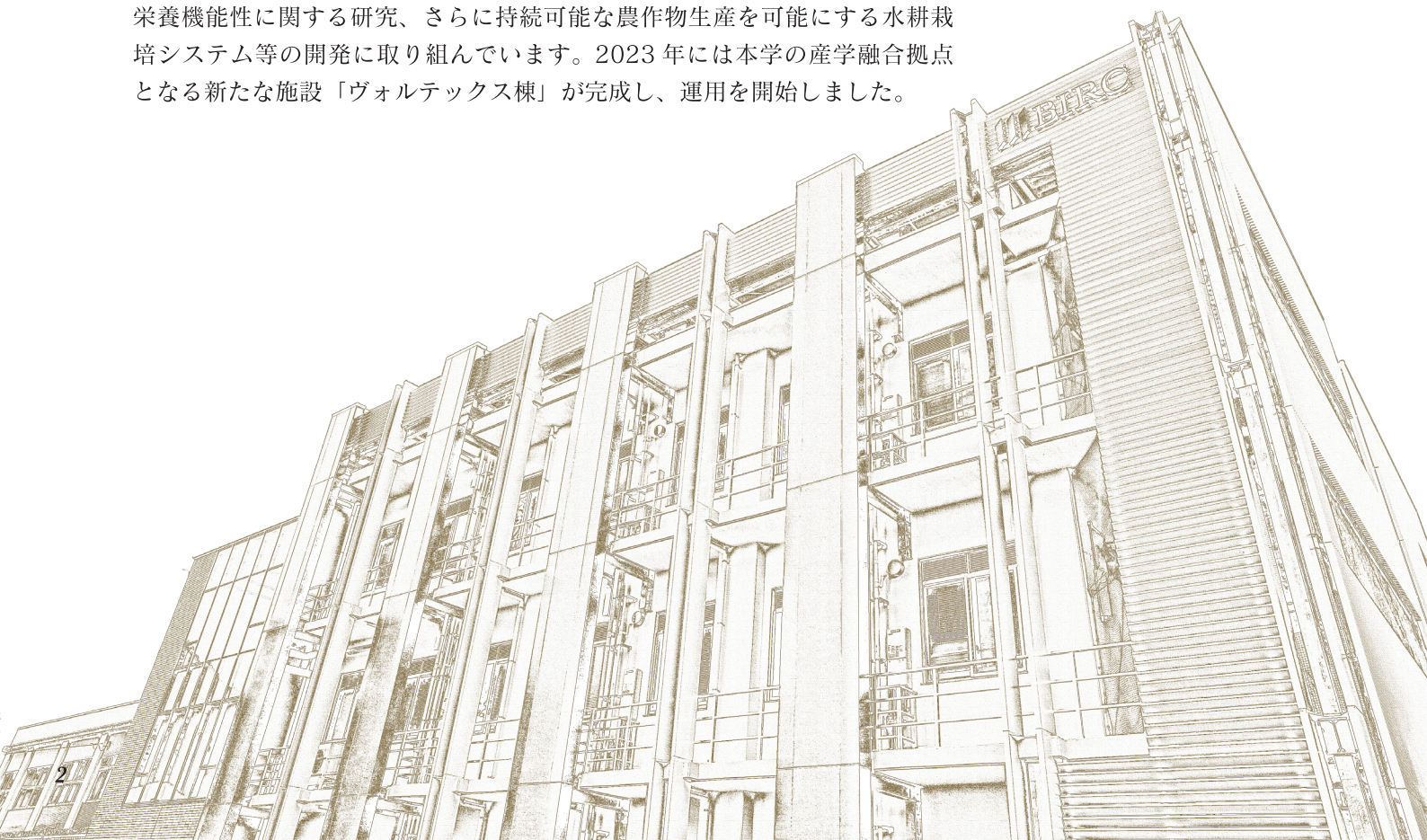
nnovation

未来の扉を開く研究施設

バイオイノベーション研究所は、石井キャンパス（農・昆虫生産・生命医療）、鳴門キャンパス（水産）、新野キャンパス（林産・農）で構成され、蔵本キャンパス（医・歯・薬）、常三島キャンパス（総合科学・理工・生物資源産業）とも連携し、バイオを活用したオープンイノベーションを推進します。

石井キャンパス

BIRC 本部として機能する石井キャンパスでは、農・昆虫生産・生命医療を中心とした研究が行われています。代替臓器または幹細胞由来の臓器再生ブタやモデルブタの作製、コオログを用いた発生調節に関する遺伝子の働きや栄養機能性に関する研究、さらに持続可能な農作物生産を可能にする水耕栽培システム等の開発に取り組んでいます。2023 年には本学の産学融合拠点となる新たな施設「ヴォルテックス棟」が完成し、運用を開始しました。



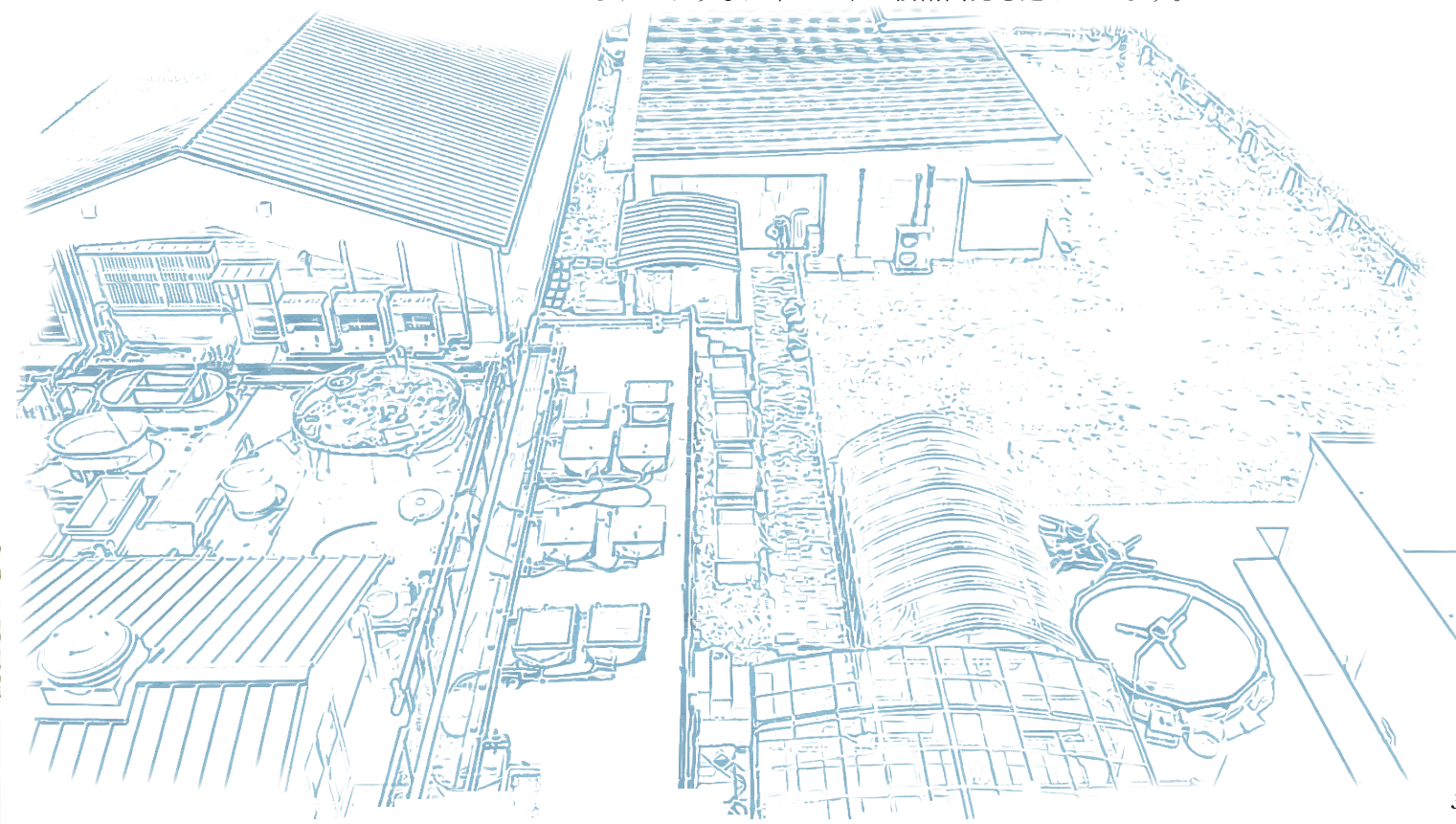
新野キャンパス

“樹木をつくる”“林産物を生活でつかう”“樹にもどす”という「林業」と「林産業」の要である森林資源循環利用を収益ある体系にするため、付加価値のある林産物を調製する研究を行っています。学問的基礎は、森林に生息するきのこの代謝科学です。木材を腐らせるきのこの等に耐腐朽性の高い製材品を生む技術開発に取り組んでいます。きのこの香り、有用物質の含有量を将来的にはゲノム編集により制御する基盤を作るため、代謝機構の解明を進めています。

鳴門キャンパス

様々な大型海藻をスクリーニングし、食用途となる新しい種類や有用な機能性成分の探索を行っています。海藻の生長や成分生産に特化した至適培養条件の検索、応用研究では実用化レベルでの陸上養殖システムの技術開発に取り組んでいます。

また、里海や里川の実現をめざし、地域のみなさん自身が生産性を高められるようなフィールドの技術開発を進めています。



バイオイノベーションを 実現する三つの部門

産業生物系部門

産業生物系部門では、バイオイノベーション研究所が有する教育・研究フィールドや多様な研究人材という特色を活かして、生物系の産学連携とイノベーション創出を積極的に推進することを目指します。石井キャンパスには教員と企業研究者が共同研究を行う共用施設「ヴォルテックス棟」が建設され、多様な共用機器も揃っており、運営マネージャーが共用機器など棟利用に係るサポートを行いますので、効率的な研究開発の推進が期待できます。

地域生物系部門

地域生物系部門では、都市からのトップダウンで地域が動くのではなく、地域から産業、教育、研究に携わる人材・技術をボトムアップし、世界に貢献できるイノベーションを起こすことを目標とします。当部門は、第一次産業分野の生物研究者のみならず、社会学、農業経済学、栄養学、細菌感染症学等が専門の幅広い分野のメンバーで構成されています。各々の専門性を基に、お互いに連携を図りながら6次産業化を推進し、地域経済を活性化して持続できるコミュニティの構築に資する研究、活動を行います。また、生産現場からのオープンイノベーションをめざし、それぞれの専門分野から各方面に研究開発や社会実装のシーズを提案していきます。

先端医療技術開発部門

先端医療技術開発部門は、令和6年度概算要求（教育研究組織改革分）で予算措置された「地域オープンイノベーション拠点における『医／農融合先端医療技術教育研究』の推進事業」により新たに設置した部門で、先端医療技術開発研究推進やメディカルトレーニングを通じた新規手技開発と医療人材育成への相互展開、さらには地域の食肉畜産業振興への貢献による地方創生の実現を目指します。創薬・医療機器開発施設には、大学病院の手術室と同じ医療機器（無影灯システム、腹腔鏡システム、X線CTスキャン、外科用X線装置（Cアーム）など）を整備しており、医／農融合の最先端の研究拠点として、医学分野からのアプローチによって、これまでにはなかった数多くの新たなイノベーションの創出が期待できます。



石井キャンパス

産業生物系部門

昆虫生産分野

昆虫は新しいタンパク質資源として注目されています。モデル昆虫であるコオロギを用いて、発生を調節する遺伝子の働きや栄養機能性に関する研究を行います。成果を食用昆虫の生産性や機能性の向上に応用します。また、将来的なゲノム編集による育種を見据えて、発生や機能性などを制御するための技術開発を進めます。これらと並行して、食品残渣などを利用した飼料開発や、昆虫養殖の自動化などの研究を通じて、循環型タンパク質生産体制の確立と産業化を進めます。

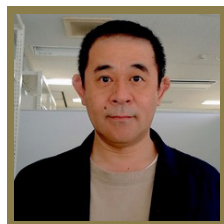
主な研究員



バイオイノベーション研究所
教授
三戸 太郎



バイオイノベーション研究所
講師
渡邊 崇人



生物資源産業学部
准教授
石丸 善康



先端医療技術開発部門

動物資源研究分野

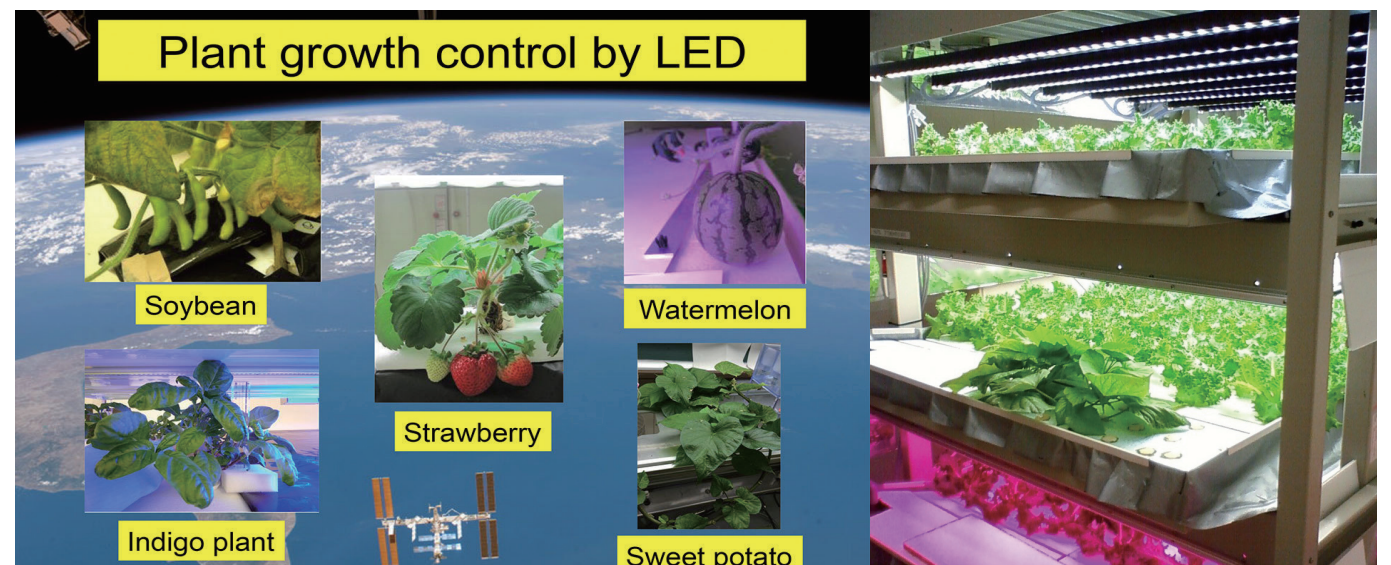
臓器移植に提供される臓器の数は絶対的に不足しています。ブタは生理学的、解剖学的にヒトに近いことから、代替臓器または幹細胞由来の臓器再生動物として第一候補として考えられています。現在、ゲノム編集により脾臓欠損ブタ作製に成功した技術を活かして、ブタ体内で異種の臓器作製や疾病モデルブタ確立について取り組んでいます。また、先端医療技術を活用して家畜診療への応用を行っているほか、食の安心安全を実現する SPF ブタの作製に取り組んでいます。



地域生物系部門

農業分野

未来の農業では、環境に優しい農業や安全・安心な農産物の生産技術が必要になります。我々は、完全閉鎖型 LED 植物工場における園芸作物または工芸作物の生育（栄養生長、生殖生長）や機能性成分の人工制御システムの開発を行い、さらに、目的の昆虫類や微生物などを共生させた閉鎖型人工生態系を構築することにより、新たな天然資源を開拓する研究を目指しています。将来的には「宇宙における閉鎖系の自立循環型栽培システム（持続可能な農作物生産を可能にする水耕栽培システム）の開発」にチャレンジし、循環型栽培の殺菌技術や有機性廃棄物を有効利用するリサイクル技術の開発などを通して、地上でのイノベーションを起こしたいと考えています。



主な研究員



バイオイノベーション研究所
教授
谷原 史倫



バイオイノベーション研究所
特任准教授
長原 恵

主な研究員



バイオイノベーション研究所
准教授
宮脇 克行

動物生産科学分野

腸内細菌叢を中心とした共生微生物叢が家畜に与える影響について幅広く研究しています。近年、腸内細菌叢をはじめとする多様な共生微生物叢が、動物の健康や成長、生産効率に影響を及ぼすことが明らかになってきました。家畜の健康維持と生産性向上を目的とし、微生物叢が生理機能に影響を及ぼすメカニズムの解明に取り組んでいます。研究成果は家畜生産の効率化や畜産物の品質向上だけでなく、使用される抗生物質の削減や疾病予防といった持続可能な畜産の実現にもつながる可能性があります。将来的には、人の健康維持や基礎医学研究への展開につながる新たな知見を創出し、畜産と社会の双方に広く貢献することを目指しています。



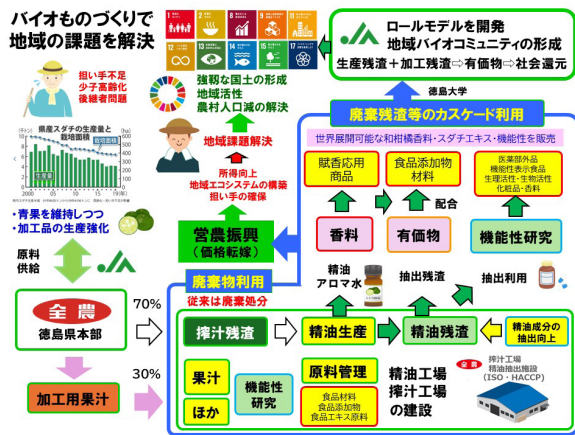
主な研究員



バイオイノベーション研究所
教授
平田 真樹

バイオエコノミー分野

農産物廃棄バイオマスから、有価物の生産プロセスを確立し、得られた利益を営農振興として農産物生産者に還元させるバイオエコノミーの社会実装を推進する。まずは、スタチの果汁搾汁廃棄物から、精油の抽出プロセスを確立し、賦香応用原料の提供、残渣のカスケード利用による有価物の生産などサーキュラーエコノミーに関するロールモデル確立を目指す。また、全農徳島県本部とプラットフォームを構築し、これにより地域におけるバイオコミュニティの形成と循環型経済の実現を目指す。



主な研究員



生物資源産業学部
教授
中澤 慶久

石井キャンパスのミニ情報

石井キャンパスのヴォルテックス棟（詳細は18頁）はオープンイノベーションを目的に創られました。その名の通り、創発的なイノベーションを創出するための場作りにも力を入れています。右の写真はセミナーやワークショップが開催できる多目的会議室とオープンイノベーションルームになります。



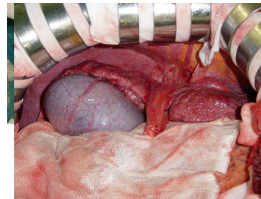
医療技術研究分野

ゲノム編集ブタの研究では、医学の力を活用することにより、1型糖尿病治療のための人工膵島提供用ブタの開発、ブタから人への異種移植用臓器の開発や新規治療薬等の開発、コオロギに関する研究では、コオロギを活用した機能性医療素材開発などを進めています。当分野では、このような医/農融合による創薬や先端医療技術開発の共創環境を実現するとともに、生物・医療系新産業のスタートアップ創出を目指しています。

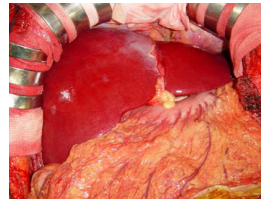
[肝臓移植]



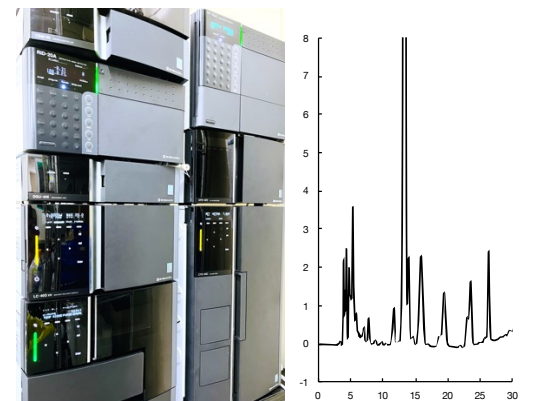
▲ 摘出されたドナー肝



▲ レビシエントの病的肝臓



▲ 移植された肝臓



コオロギ抽出物の分析

主な研究員



医学部
教授
滝沢 宏光



医学部
教授
曽山 明彦



バイオイノベーション研究所
特任助教
井上 慎太郎

医療教育研究分野

モデルブタを活用し、人体では実施できない低侵襲手術トレーニングの実施を通じた医療技術・機器、新規手技及び教育プログラム等の研究開発を行っています。近年の内視鏡下手術やロボット支援手術に代表される低侵襲手術は医療現場の負担を軽減し、人手不足の解消ひいては医師の働き方改革に貢献していますが、医療技術や機器等について人体では試すことのできないことでも、生理学・解剖学的にヒトに近いブタ等を活用することによって新たな医療技術・医療機器の開発が可能になります。また、医学部に設置されているクリニカルアナトミーラボ（未固定遺体）、スキルスラボ（医療手技・技能トレーニング）とともに三位一体でトレーニングを行う新規手技及び教育プログラムの研究開発も行っています。



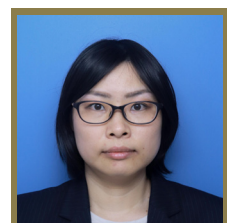
主な研究員



医学部
教授
西良 浩一



病院
特任准教授
森本 雅俊



バイオイノベーション研究所
特任助教
中井 綾



鳴門キャンパス



産業生物系部門

藻類生産分野

様々な大型海藻をスクリーニングし、食用途となる新しい種類や有用な機能性成分の検索を行っています。海藻の成長や成分生産に特化した至適培養条件の検索、応用研究では実用化レベルでの陸上養殖システムの技術開発に取り組んでいます。また、里海や里川の実現をめざし、地域のみなさん自身が生産性を高めるための技術開発を進めています。河川における魚道工法の開発、徳島県沿岸に適合した海藻の海面養殖技術の開発とその生産品を使つての6次産業化の推進、そしてLEDを利用した水産資源増殖や新漁業の創出にもチャレンジしています。

主な研究員



バイオイノベーション研究所
准教授
岡 直宏

新野キャンパス

地域生物系部門

林産科学分野

“樹木をつくる”“林産物を生活でつかう”“樹にもどす”という「林業」と「林産業」の要である森林資源循環利用を収益ある体系にするため、付加価値のある林産物を調製する研究を行っています。学問的基礎は、森林に生息するきのこの代謝科学です。木材を腐らせるきのこ等に、耐腐朽性の高い製材品を生む技術開発に取り組んでいます。きのこの香り、有用物質の含有量を、将来的にはゲノム編集により制御する基盤を作るため、代謝機構の解明を進めています。

主な研究員

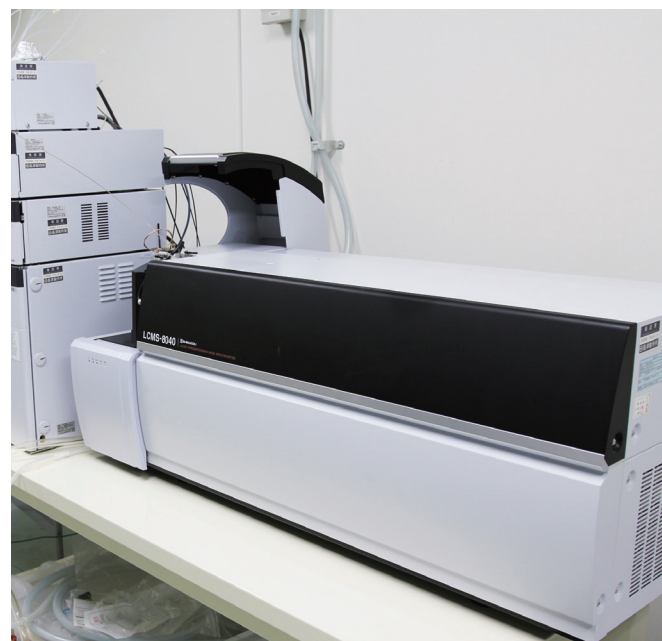


生物資源産業学部
教授
服部 武文



高大連携分野

世界的に希少な植物の盗採掘があとを絶たない問題を受け、2015年に国連が採択した「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標の一つに「陸の豊かさも守ろう」があり、環境保全・保護活動への関心が高まっています。徳島県においても、県が絶滅危惧 IA 類に指定した希少植物「イシマササユリ」の保護活動などが行われており、先駆けてササユリの培養・育成に取り組んだ新野高校（現：阿南光高校）によりバイオ球根が開発され、その球根の移植による保護活動や生態調査などが30年以上続けられています。そこで、県内のササユリなどの希少植物の貴重な遺伝資源を保護・利用することを目的とする高大連携による研究開発の推進を目指しています。また、高大連携については、農林水産業とその関連分野についての授業等も実施しています。





社会総合科学、理工学、生物資源産業学の各学域の確かな土台の上に、異分野融合、連携、グローバル、社会実装等をキーワードとして文化・学術・産業のフロンティアに挑み続ける研究者が各拠点と連携し、オープンイノベーションを推進しています。



産業生物系部門

農業機械工学分野

安心・安全で高品質な植物を安定供給可能な植物生産システムの構築を目指して、時間分解能と空間分解能がともに高い精密環境モニタリングシステムの開発と人工知能を用いた気象予測に基づく環境制御および灌水制御システムの研究にも取り組んでいます。また、管理・収穫・運搬作業の負担軽減や労働力不足への対応として、自律型農作業支援ロボットの研究も進めています。さらに、マルチコプタ型ドローンや水上ドローンといった無人機システムの農業分野への応用を行っています。プラットフォームとしての無人機開発をベースに、果樹一本単位での農薬散布、農作物の生育状況の計測、収穫した農作物の運搬、害鳥・害獣の追い払いといったスマート農業の要素技術実装を目指しています。

主な研究員



理工学部
教授
安野 卓



理工学部
准教授
三輪 昌史



地域生物系部門

農業経済分野

近年、顕著にみられる“食と農”に関する経済的諸課題の改善・解決の方向性を見定める為に、農業経済分野における農産物流通や農業振興を軸とした研究を行っており、直近は先進国のローカルフード・有機農業運動にも注目しています。その際、農業を含めた一次産業サイドの持続・活性化を最も重視しています。実際、産地マーケティングや6次産業化の成功・実現は生易しいものではなく、また、経済的側面以上に1次産業の持続、地域の維持が急務な時代に突入しています。その為、状況改善に向けた諸活動に焦点を当てて、それらが有する可能性や諸条件を検討・解明することを目指しています。

地域生物系部門

地域創生分野

地域に住む人々の暮らしを多様な面から豊かにすることを目的としています。その方法は多様であるため、教員それぞれの視点で実践的な取り組みを進めています。近年「コミュニティ」は自立を求められており、「食」「環境」「一次産業」など全体をマネジメントし「稼げる」地域社会づくりの構想と実践が要重となります。地域住民との意見交換やワークショップを通じて、住民の主体的な取り組みを育むプロセスデザインへのサポート、実際の「組織」作りを行い、持続可能な地域創生を目指します。



主な研究員



総合科学部
教授
矢部 拓也



総合科学部
教授
田口 太郎

主な研究員



生物資源産業学部
准教授
橋本 直史

生命科学研究の目的をしっかりと見据えたプロフェッショナル集団が各拠点と連携しオープンイノベーションを推進しています。本学の強みである医歯薬学・生命科学、理工系科学に特徴づけられる強みを活かし、未来の臨床ニーズと技術シーズとを融合させ、地域貢献・新規事業の創出を目指します。

産業生物系部門

医科学分野

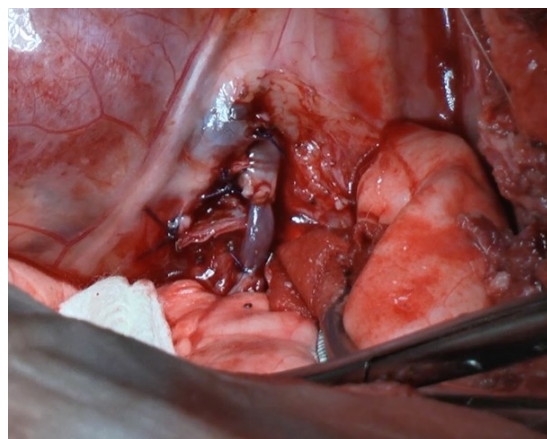
肺癌、食道癌、乳癌、また、若手～中堅外科医の手術手技の向上を図る目的で、ブタを用いた手術トレーニングも積極的に行っています。若手外科医には、鏡視下肺切除や食道切除などの低侵襲手術のトレーニング、また、今日では頻度が少なくなった開胸での手術手技（肋骨切除、血管結紮など）の機会を提供しています。中堅外科医には、実臨床でも0.1%程度と極めて頻度が低く、高難度な手技である肺動脈形成の手術手技の機会を提供しています。これら胸部外科領域以外にも様々な領域の手術トレーニングも行っています。



主な研究員



医学部
教授
鳥羽 博明



産業生物系部門

動物資源研究分野

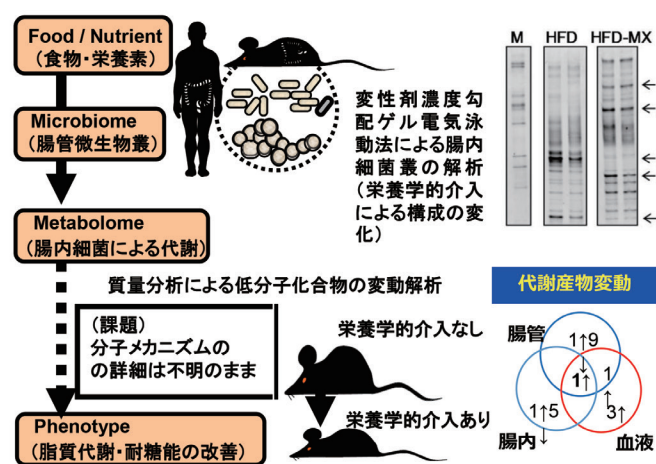
本学における独創的な医農工の分野融合型研究を推進させることをミッションに、異分野の研究者が参画し新たな医療開発を進展させるプラットフォームの形成を進めています。特に石井キャンパスの基礎研究で得られた研究シーズから、蔵本キャンパスの強みである医歯薬学の医療ニーズに応じた先進的な医療技術の開発を目的とし、小型動物から中型動物を経由する橋渡し研究の中核拠点の形成を推し進めています。

地域生物系部門

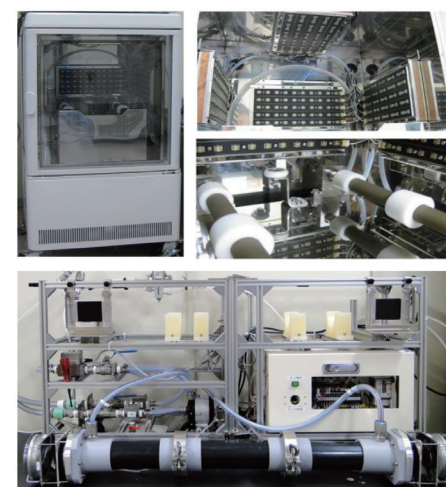
細菌・殺菌分野

食の安全安心を確保することを目標に、食中毒原因菌の病原性解析、食中毒の予防法の開発を中心に研究・開発を行っています。さらに腸内細菌の栄養管理への応用を目指した研究・開発を行い、食中毒原因菌の病原性解析、食の安全安心を確保することを目標に、食中毒原因菌の病原性解析では、食中毒の発症機序にもとづいた特異的治療法の開発を目指しています。特に腸管細菌感染症による下痢疾患の治療には栄養補給も大切であり、抗生物質のみに頼らない治療法、予防法の開発を目指しています。また、食中毒の予防法の開発では、新しい食品等の殺菌法の開発を行い、実地（現場）への応用を検討しています。腸内細菌の栄養管理への応用として、ヒトの腸管の中には、1000種類以上の細菌が共生し腸内細菌叢を形成して、腸管における、消化吸収障害などの様々な機能に関与していることが明らかとなっていますので、腸内細菌叢と栄養素の吸収分泌能の関係を明らかにし、栄養状態を改善させる方法の開発を目指しています。

腸内細菌叢によって代謝される食物由来低分子化合物の同定と生理活性の評価



新しい殺菌システムの開発



地域生物系部門

宇宙栄養学分野

ロケットに乗って宇宙に飛び出すと、そこは無重力の世界。宇宙に長期間滞在すると、筋肉や骨がぐんぐん衰弱し、地上に戻った時に自力で立てないことさえあります。無重力下で筋肉などが萎縮するメカニズムを解明し、その栄養学的予防法を開発しています。宇宙生物学は、未来＝高齢化社会の実験場でもあります。「食事」の機能性を介して人類の宇宙探査や超高齢社会のわが国の福祉に貢献していきます。

主な研究員



先端研究推進センター
教授
松本 高広

主な研究員



医学部
教授
高橋 章

主な研究員



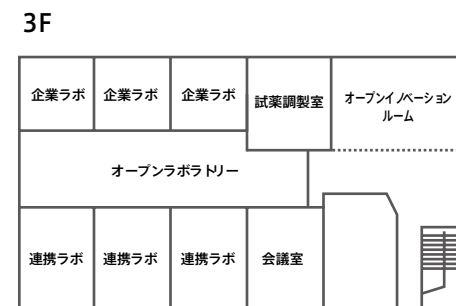
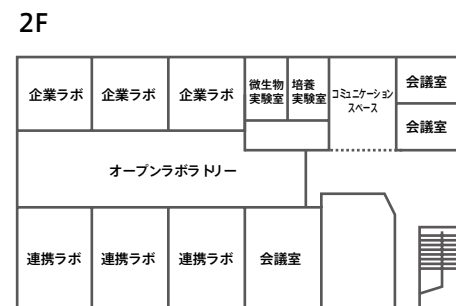
医学部
教授
二川 健

ヴォルテックス棟

地域の課題、経済の振興の拠点



バイオイノベーション研究所は、地域の課題解決や地域経済の振興等を目指し、地域の企業や地方公共団体との産学連携活動を積極的に行っている拠点として、経済産業省の「J-Innovation HUB 地域オープンイノベーション拠点選抜制度」の第1回選抜拠点として選抜されています。ヴォルテックス棟は、同省の令和3年度産学連携推進事業費補助金、徳島大学基金等により新設した建物で、本学の強みや特色ある研究分野において「企業と大学が連携しオープンイノベーションを推進するための産学融合拠点」としての役割を担う施設です。



とくしまバイオイノベーションプラットフォーム」

徳島大学バイオイノベーション研究所は、徳島県の協力の下、徳島県の産業振興や地域の活性化に寄与することを目的に「とくしまバイオイノベーションプラットフォーム」を設立しました。 とくしまバイオイノベーションプラットフォームは、会員相互の協働体制を構築し、オープンイノベーションにより会員の革新的な技術開発や事業の創出を目指します。

事業内容

1. 革新的な研究開発及び事業化に関する事業
2. 人材の育成に関する事業
3. 産官学金住の交流及び連携に関する事業
4. 調査及び情報収集に関する事業
5. 前4号に掲げるもののほか、プラットフォームの目的を達成するために必要な事業

運営体制

会長：徳島大学バイオイノベーション研究所長

副会長：徳島県立農林水産総合技術支援センター副所長

コーディネータ会議構成員：

- ・国立大学法人徳島大学バイオイノベーション研究所
 - ・徳島県立農林水産総合技術支援センター ・徳島県立工業技術センター
 - ・徳島県農業協同組合中央会 ・全国農業協同組合連合会徳島県本部
 - ・公益財団法人とくしま産業振興機構 ・徳島県中小企業団体中央会
- 事務局：バイオイノベーション研究所、徳島県立農林水産総合技術支援センター

入会について

入会申込書をメール又はファックスにて事務局へお送りください。

入会申込書、規約など詳細は、ホームページ（下記 URL 又は背表紙の2次元バーコード）を参照ください。

<https://www.birc.tokushima-u.ac.jp>

とくしまバイオイノベーションプラットフォームの概要

1

バイオ分野における
オープンイノベーションの啓発

- ① セミナーの開催
- ② HP 等を活用した PR、先進事例の紹介

2

地域における
ニーズの把握

- ① ニーズ調査の実施
- ② 窓口担当機関による情報交換

3

オープンイノベーションの
マッチング

- ① 会員交流会の開催
- ② 会員サイトでのニーズ紹介
- ③ 技術相談の受入れ
- ④ コーディネータによるマッチング
- ⑤ コーディネータ会議での情報共有

4

オープンイノベーションの
推進

- ① POC 事業の実施
- ② 外部資金の獲得支援
- ③ 事業の伴走支援
- ④ ワーキングチーム（事業化コンソーシアム）の構築
- ⑤ 分野別セミナーの開催

5

成果の PR

- ① HP への掲載
- ② メッセ等への参加
- ③ 事業化支援
- ④ 発表会の開催

ご寄付のお願い

バイオイノベーション研究所へのご支援をお願いします。
バイオイノベーション研究所は、
地域に軸足を置いて地域の幸せな未来を創る
イノベーションを目指してまいります。

税制上の優遇措置

バイオイノベーション研究所（徳島大学）へのご寄付は、本学が発行する「寄附金領収書」を添えて確定申告を行うことにより、税制の優遇措置を受けることができます。



個人でご寄付をされる場合

所得税の「税額控除」または「所得控除」のいずれかを選択できます。さらに、お住まいの地域によっては住民税の「税額控除」の対象になります。なお、控除を受ける場合は、確定申告又は還付申告が必要になります。



法人でご寄付をされる場合

寄付金の全額を損金算入することができます。

徳島大学寄附財産基金

現金以外にも、個人の方からの「土地、建物等の不動産」、「株式等の有価証券」など、現物資産によるご寄付もお受けしております。徳島大学では、文部科学大臣の証明を受けた「徳島大学寄附財産基金」を設置しており、「みなし譲渡所得税」の非課税承認を受けることができます。ご寄付いただいた資産は、バイオイノベーション研究所の教育研究活動等の充実に活用させていただきます。

基金の申込方法

徳島大学基金はインターネットからの寄付を受け付けています。詳細は、徳島大学基金プロジェクトサイトをご覧ください。書面での寄付申込を希望される場合は、お問い合わせ先の徳島大学 経営企画部 大学経営企画課 未来創造室（tel: 088-656-9979）までご連絡ください。

謝意について

感謝のお手紙をお送りしています

ご支援いただいた寄付のお礼を領収書とともに送付させていただいております。

感謝状の贈呈

個人で 500 万円以上、法人団体で 1000 万円以上のご寄付をいただきました皆さまに、感謝状を贈呈させていただいております。

紺綬褒章

寄付者様の意向を確認のうえ、公益のために私財を寄付いただいた方に授与される「紺綬褒章」に、本学から文部科学省へ申請いたします。

[対象：500 万円以上のご寄付をいただいた個人、又は 1000 万円以上のご寄付をいただいた法人・団体]

石井町企業版ふるさと納税によるご寄付

石井町への企業版ふるさと納税でバイオイノベーション研究所をご支援いただくことができます。「徳島大学地域連携事業」を指定いただくことで、徳島大学（バイオイノベーション研究所）へ寄付されます。企業の皆さまは、手続きをすることで、損金算入による軽減効果（寄付額の約 3 割）と合わせて、税額控除（寄付額の最大 6 割）により、最大で寄付額の約 9 割が軽減され、実質的な企業の負担が約 1 割まで圧縮されます。（2024 年度の税制改正より税額控除が 2027 年 3 月 31 日まで延長されました。）

お申込はこちら▶▶

企業版ふるさと納税とは、国が認定した地方公共団体の地域創生プロジェクトに対して企業が寄付を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。



※ 2024 年 7 月 30 日、徳島大学は石井町と「石井町企業版ふるさと納税制度による徳島大学地域連携事業推進のための協定」を締結しました。

徳島大学基金からのご挨拶

皆さまには、平素から徳島大学の教育、研究、社会との共創活動に対しまして様々ご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

徳島大学は、未来を見据え、これまでに培ってきた知と人の財産を継承し、新しい時代と社会の課題に応えるため、教育・研究の充実に努めて参ります。徳島大学が将来にわたり「人、地域をはぐくみ未来をつくる」活動を継続していくためには、長期的に安定した財産基盤の強化、基金の充実に不可欠です。温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



お問合せ先

徳島大学 経営企画部 大学経営企画課 未来創造室
770-8501 徳島県徳島市新蔵町 2 丁目 24 番地
Tel : 088-656-9979

E-mail : dosokikink@tokushima-u.ac.jp





徳島大学バイオイノベーション研究所



BIRC本部

(石井キャンパス)

〒779-3233

徳島県名西郡石井町石井字石井 2272-2

Email : info.birc@tokushima-u.ac.jp

鳴門キャンパス

〒771-0361

徳島県鳴門市瀬戸町堂浦地廻り壱 96-14

新野キャンパス

〒779-1510

徳島県阿南市新野町室ノ久保12番地



徳島大学バイオイノベーション研究所は、経済産業省によるJ-Innovation HUB 地域オープンイノベーション拠点（地域貢献型）に選抜されています。この拠点選抜は、大学等を中心とした地域オープンイノベーション拠点の中で、企業ネットワークのハブとして活躍しているものを経済産業省が評価・選抜することにより、信用力を高めるとともに支援を集中させ、トップ層の引き上げや拠点間の協力と競争を促すための制度です。地域の課題解決や地域経済の振興等を目指し、地域の企業や地方公共団体との産学官連携活動を積極的に行う拠点として期待されています。